

P.145 1番（南谷清司君）

◆1番（南谷清司君） 皆様、おはようございます。

議長より発言の許可をいただきましたので、通告に従いまして、生涯学習についてとGIGAスクール構想についての2項目をお伺いします。

質問に入る前に、コロナ感染症第3波到来と言われる中、羽島市民の安全を守るために日々懸命にご努力いただいている医療関係の皆様、福祉関係の皆様、教育関係の皆様、その他多くの皆様、そして支えていただいている行政関係の皆様に、改めて深く感謝申し上げます。

7月末の第2波非常事態宣言のときの状況と比較すると、今の様々な数値はもっと厳しい状況を示しているようですが、羽島市においてはタイミングを逃すことなく、最善の準備と対応をお願いいたします。

また、松井市長におかれましてはこのたびの市長選挙において当選され、おめでとうございます。少子高齢化の進展、公共施設の老朽化、コロナ禍への対応など多くの課題が待ち受けている羽島市ですが、そのような厳しい時代だからこそ、行政の安定と市長の行政手腕が求められます。松井市長には、3期目に当たって、これまで以上に力を発揮していただき、羽島の躍進につながる施策を堅実に実施していただきたいと思います。

さて、松井市長がさきの市長選で掲げられたふるさと羽島市の躍進戦略の中から、教育に関する施策についてお尋ねしたいと思います。教育関係の施策は幾つか上げていらっしゃると思いますが、その中の「生涯学習体制の見直しを図り、総合的な学びの場づくりを進めます」と「先進的に取り組んできたGIGAスクール構想をさらに促進し、デジタル教育を充実します」の2項目を取り上げたいと思います。

最初に、標題1の生涯学習についてお伺いします。

私が議員になって初めての質問は、1年前の12月議会でした。私が羽島市議会の議員に挑戦しようと思った最大の理由は、羽島市の学校教育の充実・発展に役立ちたいということです。そのための第一歩として、ぜひとも実現したいことがスポーツ、文化、社会教育を教育委員会から市長部局の所管へと移すことです。ですから、議員になっての最初の質問で、この件を取り上げました。

実は、逆に、市長部局から教育委員会へ移したい事務もあるのですが、それは今後の議会で議論したいと思います。

簡単に、1年前の質問で提案をさせていただいたことをご説明させていただきます。

教育委員会がスポーツ、文化、社会教育を担当することは、かつては当然とされてきました。地教行法の改正により、岐阜県では条例や規則を定め、その全部を知事が、また、幾つかの市でも、これら全部または一部を市長が担当しています。これは、スポーツ、文化、社会教育を知事や市長自らの責任で、ほかの施策と連携を取って推進するためにです。

近年の羽島市では、市民のスポーツ参加意識が地域の活性化や健康増進へと変わってきているようです。また、竹鼻の山車などを観光資源として活用することも、より一層重要となってきています。地域づくり型生涯学習は、生涯学習の目標が大きく変化していくことを象徴しています。

このような変化を踏まえ、スポーツ、文化、社会教育を教育委員会ではなく、市長の担当に移してはどうかと考えます。羽島の子供たちが未来社会を生き抜くための力を身につけることができるよう、教育長がその力の全てを学校教育に集中させる体制をつくるとともに、創造力と実行力あふれる市長が市長の将来構想に基づく施策を総合的・横断的に立案し、効率よく実行していくような体制にしていかがでしょうかという内容でした。

まとめると、少子高齢化とそれに伴う地域の活力低下に対応するために、市長の将来構想に基づく施策を市長自身の権限と責任の下で、スピーディーに立案し、実行していくことが今こそ重要である。よって、スポーツ、文化、社会教育の担当を教育委員会から市長に移すべきではないかという提案でした。

それに対して、答弁は、今後、詳細な検討を加えながら判断していきたいという内容でした。

あれから1年がたち、市長選を迎え、その公約として、「生涯学習体制の見直しを図り、総合的な学びの場づくりを進めます」が示されました。単純に考えれば、1年前の議会での答弁を踏まえ、詳細な検討を加えた結果、生涯学習の体制について何らかの判断があったのではと想像されます。

そこでお尋ねします。

生涯学習体制について、見直しのポイントや方向性について、市長自身が直接指揮監督することについての考え方も含め、ご説明いただきたいと思います。

次に、標題2のGIGAスクール構想についてお伺いします。

GIGAスクール構想のGIGAとは何のことかと思い、調べてみました。最初のGは、グローバルで国際、Iはイノベーションで革新、Gはゲートウェイで門、Aはオールで全体を意味していると思われますので、GIGAスクール構想をそのまま訳してみると、全員が国際舞台と革新的創造の扉を開けることができる学校にする構想となるのかなと思います。キーワードは「国際」と「革新」と「全員」というわけです。

ここらあたりのことは教育の在り方の話になるので、後ほど教育長にお尋ねしますが、市長の立場では、GIGAスクール構想を羽島市としてどのように捉え、どのような方針で臨むのかということになります。

GIGAスクール構想を促進するためには、ハード、ソフト、指導体制の3点がそろう必要があります。ハードだけ整備してもソフトがなければ、ネットで調べものをしたりすることしかできないですし、さらには、指導体制が充実して全ての先生方が授業で活用できるようにならないと、全員が国際舞台と革新的創造の扉を開けることができる学校になることはできません。

国の予算措置も、少しではありますが、そのことも考慮されており、1人1台の整備、学校ネットワーク環境の整備というハードの整備だけではなく、GIGAスクールサポーターの配置も予算化されています。そして、羽島市においても、国の予算を活用して、先進的かつ積極的に、まずはハード整備から進められているところです。

このような状況の中、市長選において公約として「GIGAスクール構想をさらに促進し、デジタル教育を充実します」が示されました。

そこでお尋ねします。

GIGAスクール構想のさらなる促進について、学校の未来についてのお気持ちも含めて、そのポイントや方向性をご説明いただきたいと思います。

以上が1回目の質問です。よろしく願いいたします。

P.147 市長（松井聡君）

◎市長（松井聡君） それでは、私から、2点のご質問に対してご答弁申し上げます。

まず、生涯学習についてでございます。

「まちづくりは人づくり、人づくりは学びづくり」と言われますように、地域振興の根幹は一人一人の方々の学びの充実であり、この学びの充実こそが地域・学校・家庭が一体となって推進されるべきものと考えております。人のうわさや風聞に惑わされることなく、自らが正しく見聞、いわゆる学び、確

かめ、省みることが潤いのある生涯形成と人生の中の重要なファクターであると、私は位置づけておるところでございます。

本年度より進めております羽島市生涯学習都市づくり5カ年計画におきましては、地域づくり型生涯学習を中核に据え、個人の学びによって得た知識や技能を多くの人に広めながら、地域課題を解決するという営みを通し、地域力の醸成につなげることを目指してまいります。

他方、生涯にわたる学びの充実のためには、これまでも地域で学びの場を設定してまいりましたが、加えて、学びのための人材を育成することも重要であり、昨年度より岐阜大学と教育委員会の共同研究に基づき、人材育成や学びのネットワークづくりの在り方についても検討し、新たな取組の準備を進めております。また、昨日にもお話をいたしましたプロボノというような、名刺や肩書を捨て、自らが地域貢献をしていただくような、重要な人材育成についても努めてまいりたいと考えております。

生涯学習を推進するためには、先ほども申し上げましたとおり、地域・学校・家庭が一体となって取り組むことと併せ、議員ご指摘のございましたスポーツ、文化及び社会教育を教育委員会事務局から市長部局へ移転することにつきましては、これまでも、実は就任以降、検討を加えてまいりましたが、昨年のご質問以降さらに深掘りをして、この状況についての検証を重ねてきておるところでございます。

市長部局に移管した場合におきましては、部局相互や関係機関、関係団体との連携を密にしながら推進していくことが求められますことから、今後は、複数年の期間を定めながら、市役所の機構改革と併せ、施策の推進体制、そして最も重要な適材の人事配置、事務分掌の在り方などについて、さらに検討を加え、判断をしてまいりたいと存じます。

仮にでございますが、部局というような形での設定を行う場合には、現在でございます市民協働部門と生涯学習部門、この2つを併せた部もしくは局というような構成が市民の方々と共に歩む・学ぶというまちづくり、人づくりにつながるものと思慮をいたしております。より一層のご指導を賜りたいと存じます。

続きまして、GIGAスクール構想につきましては所見を申し上げます。

GIGAスクール構想の実現につきましては、学校内の通信ネットワークと児童・生徒1人1台端末及び大型提示装置の整備など、ハード面を中心に先行させてきたところでございます。

今回の整備につきましては、2023年に整備する予定でありましたものを国の施策と相まちまして前倒しで実施し、子供さんたちが伸び伸びと学び、未来を生きていけるよう教育施策の一つとして取り組んだものでございます。ご指摘のとおり、この構想を実現するには、ハードの整備に加え、今後は教育委員会と連携し、ソフト面、指導体制づくりの充実を図っていきたいと考えております。

Society5.0時代が到来すると言われておりますが、現在、学校には、ほかの子供さんたちとの学習が困難なお子様さんや発達障がいのあるお子さん、日本語指導が必要なお子さん、さらには特異な才能を持つお子さんなど、多様で個性豊かなお子さんがおられます。こうした個性豊かな子供さんたちを誰一人取り残すことのないよう、学校教育におきましては先端技術を効果的に活用した学びを実現してまいりたいと考えております。

また、羽島市での学びを生かし、将来は、この羽島市であるいは岐阜県で、さらには広く門戸を広げ、世界で活躍できるような人材の育成についても夢ではなく、まさに正夢として推進してまいりたいと考えております。そのような形のツールといたしましては、成功いたしております桑原学園のような義務教育学校というような形での環境整備につきましても、今後、前向きに取り組んでまいりたいと存じますので、ご理解を賜りたいと存じます。

以上でございます。

P.149 1番（南谷清司君）

◆1番（南谷清司君） ご答弁ありがとうございます。

先日、ある方の講演を聞いておりましたら、市長のお話の中にも出てきましたが、人生100年の後半となる60歳以後の人生において、名刺や肩書を捨てた活動や社会に貢献できる活動の場所を確保することが重要であると話されていらっしゃいました。そして、高齢者のそのような活動が普通に行われている社会になれば、すばらしい未来が待っていると、そんなこともおっしゃっていました。

私も同感で、生涯学習はそのためのツールの一つになり得ると、そのように考えています。高齢者が社会とつながって生き生きと活動するために学ぶ場所や地域人材の確保や育成のための場所として、社会教育や生涯学習を考えていく視点が非常に重要であるなど、そのように思っております。

趣味などの講座や啓発や啓蒙のための講座が中心の生涯学習から、人生100年時代に向けて、社会の在り方を変えていくツールとしての生涯学習へ変わっていくよう、他の地域づくりの施策と総合的・横断的に立案、実施していただけるような体制づくりをお願いしたいと思います。

では、生涯学習についての2回目の質問として、今述べた内容を踏まえて、教育長に羽島市の社会教育、生涯学習の現状についてどのような感想をお持ちかお尋ねしたいと思います。

羽島市の生涯学習、社会教育、文化は、現在は教育委員会の生涯学習課で担当されており、課長、生涯学習係、社会教育係、文化振興係の合計10人で構成されています。ほかに出先機関にも職員が配置されています。この生涯学習課がそのままの体制、職員構成で市長部局へ移るとしても、人事異動上の法的な課題は特にはないと承知しています。羽島市で採用された事務職員は、今までも人事異動で教育委員会と市長部局を行ったり来たりしているのですから、問題はないはずです。

また、教員系職員にしても、岐阜県の例では、県立高校の校長が年度末の定期人事異動で、知事部局の事務職員である部長級の子ども・女性局長へ異動したこともあり、問題はないと思われます。

つまり、現在の教育委員会の生涯学習課をそのままの体制、職員構成で市長部局へ移すことは可能ということだと思います。検討しなければならないのは、先ほどからお話しているように、これからの羽島市において、社会教育、生涯学習の目指す役割と目的は何か、その実現のために最もふさわしい体制は何かということだと思います。

1年前の議会質問でもお話ししましたが、羽島市生涯学習都市づくり5カ年計画では、「地域づくり型生涯学習を通して、地域の絆、コミュニティをさらに強化」が上げられています。「地域づくり型生涯学習」という用語は、まさに、生涯学習が今までのカルチャーセンターのような学習から、地域づくり、絆づくり、コミュニティづくりに貢献するための学習へと大きく変化していきます。

このように、羽島市では、社会教育、生涯学習を学びを通じた人づくり、つながりづくり、つまりは地域づくりの視点から、市民の地域や社会への参加を一層推進するための活動として捉えることが重要になっています。そして、そのような役割、目的を実現するためには、教育長が所管するのと市長が所管するのとでは、どちらがより効果的・効率的に施策を立案し、実施できる体制だろうかということが問われるわけです。

そのためには、今まで現場で担当してきた方々が、地域づくり型生涯学習という視点から、生涯学習の現状をどのように見ていらっしゃるのかということも重要な判断材料になると思います。

そこで教育長にお尋ねします。

生涯学習を担当している教育委員会の責任者として、生涯学習の現状や将来の展望についてどのような感想をお持ちでしょうか。また、市長部局へ所管を移すことについてのお考えもご説明ください。

P.151 教育長（森嘉長君）

◎教育長（森嘉長君） お答えいたします。

当市においては、これまでも、はしま学事始やはしま活き活き講座などの講座を市民の方の学びのきっかけづくりとなることを目指して開催してまいり

ました。また、市職員が講師となって学びを届ける出前講座を充実させ、コミュニティセンターをはじめとする関連施設において地域住民が学び、文化・芸術に親しむ機会や触れ合いの場を提供するなどして、生涯学習の推進を図っているところでございます。

このような中、本市が目指す地域づくり型生涯学習のさらなる実現に向けて、岐阜大学との共同研究や生涯学習都市づくり5カ年計画策定の過程において、学びのネットワークとそのための人材育成が重要であることが課題として明らかになりました。

今年度、こうした課題を解決する取組として、市民講座の講師の養成を目的とする、はしまシティカレッジ制度を立ち上げたところです。今後は、この制度をモデルとして、地域社会の中で学びを生かせるような学びのネットワークを構築していきたいと考えます。

生涯学習を市長部局へ移管することについては、県内他市の状況を確認しておりますが、福祉、健康、観光などの市長部局所掌の取組と一体的かつ合理的に行えることや、市民活動団体との情報交流やつながりを強化できることが効果と考えられ、地域づくり型生涯学習の推進が期待できるものと思われます。

他方、子供たちの健やかな成長のためには、地域、学校、家庭、そして行政が協力して、スポーツ、文化、社会教育に一体的に取り組むことも必要であり、スポーツや社会教育を教育委員会所管とすることにも意義があると思われます。

移管することについては、今後、検討のための時期や期間を設け、多様な観点から精査、判断してまいりたいと思います。

以上でございます。

P.151 1番（南谷清司君）

◆1番（南谷清司君） 市長におかれましても、教育長におかれましても、私の持っているイメージとほぼ同じようなイメージを持っていらっしゃるということで、目標を達成するためにどういう体制がいいのか、よりよい体制は何かということがポイントになっているわけですので、今後も議論を深めていきたいなと、そのように思っております。

ただ一つだけ、もう一つ違う観点を、少しだけお話をさせていただきたいと思います。

生涯学習、社会教育の対象には、青少年、保護者、一般社会人、高齢者などの様々な分野があるわけですが、この生涯学習、社会教育は、現状では、教育委員会、つまりは大きな枠組みの中では、学校の先生、教員の指導の下で実施されていると、そういう状況です。つまり、学校と同じような価値観、指導理念といえますか、指導意識といえますか、そういうものの中で実施をされているということです。

先ほどの教育長の話のように、それがいい面もありますし、これからお話しするのは逆の面もありますよということなんですが、社会の発展のためには多様性の確保が重要だという意見がございます。特に、多感な青少年の成長のためには、多様な価値観の中で育てることが有効であるということは、多くの識者の方が指摘しているところです。

学校の中の先生方が持つ、同業者同士の同じような価値観の中だけで教育されるのではなくて、先生方と異なった価値観、学校の外にある普通の大人たちが持っている価値観にももっと触れながら、子供たちが育っている環境を整備することも重要なことなんだろうと思っております。

学校の先生の持っている価値観、指導方針、これがいい、悪いではなくて、ダイバーシティ（多様性）を確保するということが社会の発展、子供の成長にとっては必要なんだと、そういう観点もありますので、そんなことも踏まえながら、今後の生涯学習、社会教育の在り方を検討していただきたいなと、そのように思っております。

次に、G I G Aスクール構想について、市長から今後のソフトや指導体制の整備、あるいは羽島市の教育の目指す姿について力強い答弁をいただきました。

次は、目指す教育の姿を中心に、教育長にお尋ねをしたいと思います。

1回目の質問の際に、G I G Aスクール構想について、全員が国際舞台と革新的創造の扉を開けることのできる学校にする構想という訳を紹介させていただきましたが、文部科学省は、G I G Aスクール構想について、I C Tを積極活用し、誰一人取り残すことのない個別最適化された創造性を育む学びを実現するとしています。これは、先ほど市長の答弁の中にあった目標と同じ内容でございます。

そして、もっと具体的な目標として、1点目、学びにおける時間、距離などの制約を取り払う、2点目、個別に最適で効果的な学びや支援、3点目、プロジェクト型学習を通じて創造性を育む、4点目、校務の効率化、最後の5点目、学びの知見の共有や生成の5項目を示しています。しかし、私が知る学校現場は、決して羽島市内だけのことでなくて県内や他県も含めた傾向ですが、パソコンやタブレットがただの百科事典の代わり、あるいは教材や発表資料の提示装置としてしか活用できていない授業が多く見受けられます。

なぜそうになってしまうかという、I C Tを活用した授業のゴール、目指すべき授業の姿について、教育委員会、校長、そして現場の先生方の共通理解が不足しているからではないかと思えます。実際に、先生方にパソコンを活用した授業改善の目標を尋ねてみると、子供たちにとって分かりやすい授業やコンピューターを使った生徒の発表、調べることを重視した探究的な活動の充実など、先生方によってかなりの差があります。しかし、先生方が話されるこれらの目標は、文部科学省が示している目標の2点目、個別に最適で効果的な学びや支援、3点目のプロジェクト型学習を通じて創造性を育むという目標と一致しているので、間違っているわけではありません。

問題は、先生方によってばらばらで共通理解が図られていないという点と、先生方があまりに多忙なためか、目の前の課題にとらわれ過ぎていて、将来的な展望にまで意識がいかないことです。先生方は多忙です。幾ら先生方に指導方法や目標などを研修しろと命じても、そんな時間が全く取れない勤務状況の先生方には、自ら考え調べて身につけることは時間的にとても無理な話です。学校現場任せでは、G I G Aスクール構想は容易には前へ進みません。

G I G Aスクール構想を促進するためには、ハード、ソフト、指導体制がそろう必要があります。先生方の共通理解が図られにくい理由の一つには、ソフトと指導体制について、将来的な見通しや整備方針が先生方に伝わっていないこともあるのではないかと思います。どのようなソフトを導入していくかの方針やソフト導入の工程表は、I C Tを授業でどのように活用していくかにつながり、先生方はいや応なしに将来的な展望を意識することになります。

私がG I G Aスクール構想で最も重視すべきと考えているのは、I C Tを利用した個別に最適で効果的な学びや支援です。学力も、興味関心も、コミュニケーション能力も、何もかもが異なる子供たちへ、それぞれに最も適した学習環境を提供することです。

つまりは、学校でも、家庭でも、子供たち一人一人に異なる教材を提示した個別に最適で効果的な学習ができることです。そして、一人一人の異なった学習状況を先生方が把握し、個別に学習支援ができることです。言ってみれば、いつでも、どこでも、能力に応じた学習ができ、指導が受けられる教育です。これが、G I G Aスクール構想が目指すべき学校教育の究極的な姿だと思っています。

未来のことなので、教育長とは考えが異なるかもしれませんが、異なるならば異なるで、いずれにしても、G I G Aスクール構想により目指す授業の姿、学校教育の姿を明確にし、ソフトや指導体制の整備についての具体的な方針やロードマップなどを校長だけでなく、各学校の最前線で頑張っている一人一人の先生方に、教育長自らが直接話していただきたいと思います。

また、羽島市が目指しているそのような新しい授業の姿を広く市民に広報することも、少子高齢化対策、若者移住・定住対策としてもかなり有効だと思います。

そこで教育長にお尋ねします。

G I G Aスクール構想により実現すべき将来の授業の在り方、学校教育の目標について、教育長のお考えをご説明ください。また、その実現に向けた課題についてもご説明ください。

P. 154 教育長（森嘉長君）

◎教育長（森嘉長君） お答えいたします。

当市G I G Aスクール構想におきましては、議員のご質問にもありましたが、誰一人取り残すことがないよう公正に個別最適化された創造性を育む学びを実現するために、まずは児童・生徒に効果的で一人一人に応じた学び、主体的・対話的な学び、そして情報活用能力を高める学び、これら３つの学びを育むことが大切であると考えています。

こうした学びの育成に向け、児童・生徒一人一人が導入予定のクラウド環境を利用した授業支援アプリを活用し、自分に合った内容や自分なりの手順で学べる授業や大型提示装置に互いの考えを映し出し、仲間と積極的に対話する授業などを計画しています。そのために、課題として、各学校のG I G Aスクール担当者を中心に、教員研修の充実やI C T機器活用のスキルアップを図ってまいります。

G I G Aスクール構想を通してつけた力を発揮する学びの姿として、世界最高速級の学術ネットワークS I N E T（サイネット）との接続に伴う教育ビッグデータの活用が可能となった場合には、学校でも、家庭でも、地域でも、将来、子供たちが自身の資質能力を伸ばし、身の回りの問題や地域課題に生き生きと取り組み、解決していけるような豊かな学びの姿を目指しています。

以上でございます。

P. 154 １番（南谷清司君）

◆１番（南谷清司君） ご答弁ありがとうございました。

再度、先日の講演の話ですが、講師の方がおっしゃるには、小・中学校の一斉授業で学ぶ内容は、G I G Aスクール構想が実現すれば、ある子供は約10分の１の時間で学んでしまい、遅い子供でも約７割ぐらいの時間があれば学んでしまう。知識の習得だけ考えれば、現在のように全員が同じ内容を学ぶ授業と比較して、G I G Aスクール構想によって実現される個別に最適化された学習によって、大幅な学習時間の短縮が実現できるそうです。

そして、余った授業時間をそれぞれの子供たちに適した体験活動や創造的活動、さらには人間関係の充実の時間に充てることにより、子供の教育が一層充実するそうです。つまりは、学校の授業の姿が一変してしまうわけです。まさに、私のイメージと同じものでした。

今の技術ならば、お金さえあれば、数年後には実現できそうですが、お金は大きな課題です。しかし、私は、羽島市の学校教育がこのような目標に向かって、その先頭を走ってくれることを期待しています。それが若者世代、子育て世代の羽島市定着につながり、羽島市の発展につながっていくと信じています。

これで私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。